

(1) まちづくりの考え方(将来像と目標)案 について

1) これまでの議論を踏まえた、まちづくりの目標検討のキーワードについて

将来めざすべき「まちづくりの方向」と「目標検討のキーワード集」として以下のように整理した。

(これまでの策定委員会・専門部会等の議論も踏まえ)

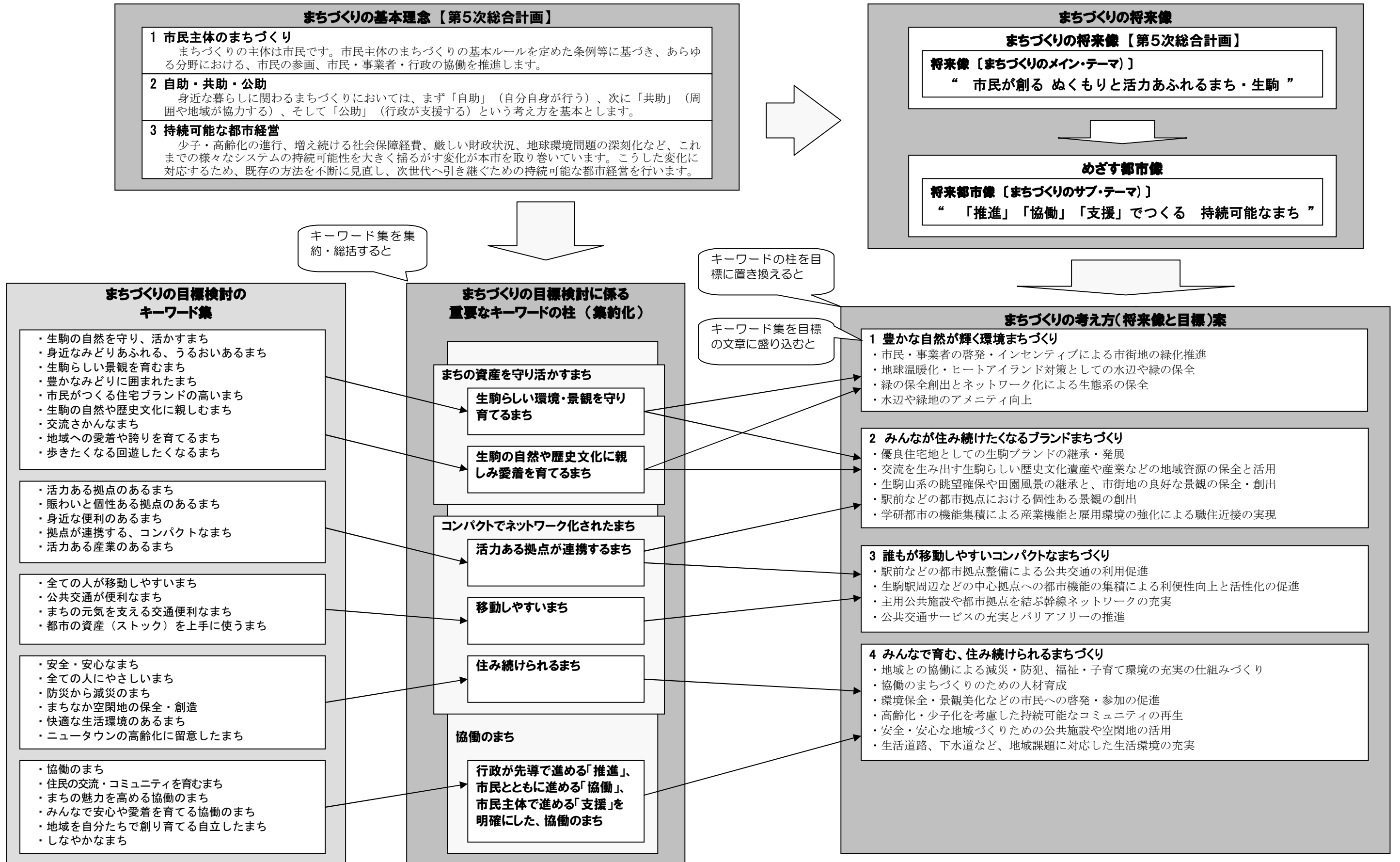
これまでの議論等を踏まえた、踏まえるべき「まちづくり方向」のあり方			
前回提示の目標検討の視点案(主要課題関連) (現状、市民意向、環境変化等に基づく)	前回の専門部会での主な意見	行政の考えるまちづくり	まちづくりの目標検討のキーワード集
<p>■生駒の自然(みどり)を守り、活かすまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 山林・水辺・田園等の環境の保全と活用 生駒らしい、山並み・眺望景観の保全 地域資源を活かした景観整備 <p>■身近なみどりあふれる、うるおいあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかの緑化推進 身近な緑を増やし、質の高いまちなみ景観の形成 公園・緑地のネットワーク化 <p>■みどりに囲まれた質の高い生駒ブランドの住宅地</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然や緑豊かな住宅地としてのブランド強化 <p>■生駒の歴史文化を育み、活かすまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 多彩な歴史文化資源の保全 歴史文化資源を各地域の活性化に活かす取組強化 地域の観光交流資源のネットワーク化と観光・交流人口の増大 	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い住環境を、次世代に向けていかに形成していくかが重要 そのためには、住環境のメンテナンスが重要であり、いかに住民の力を引き出し、住宅地の資産価値の向上を図っていくかが重要 単なる住宅都市にとどまらず、交流人口として、いかに生駒市に来てくれる人を増やしていくか、も重要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を踏まえたまちづくりを進める 中心市街地などで電線類の地中化や良好な街並み形成による美しいまちにする 里山、農村の自然環境を保全し、居住と調和した環境づくりを行う 歴史や文化などのまちの資産や古くから伝わるものを活かし、新しいものと調和したまちにする 	<ul style="list-style-type: none"> 生駒の自然を守り、活かすまち 身近なみどりあふれる、うるおいあるまち 生駒らしい景観を育むまち 豊かなみどりに囲まれたまち 市民がつくる住宅ブランドの高いまち 生駒の自然や歴史文化に親しむまち 交流さかんなまち 地域への愛着や誇りを育てるまち 歩きたくなる回遊したくなるまち
<p>■拠点が連携する賑わいあるまち(コンパクトなまち)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心拠点の商業等広域魅力強化、高質景観形成 各地域の特色ある身近な商業サービス等機能の充実 コンパクトシティ(機能集約的な都市) <p>■活力ある産業のあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 学研都市の活性化、企業誘致の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の人口減少を考えると、中心部において、交通利便性が高く都市機能集積も高いメリットを活かし、住宅、都市機能の集約や、それと公共交通の充実を図っていくことが重要 生駒駅前の整備推進が望まれる 道路交通が脆弱 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の暮らしを歩いて暮らせるまちにする 産業の育成、企業の誘致、地産地消の促進により自立し活力あるまちにする 中心市街地など都市拠点に人が集まり、賑やかで元気のあるまちにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活力ある拠点のあるまち 賑わいと個性ある拠点のあるまち 身近な便利のあるまち 拠点が連携する、コンパクトなまち 活力ある産業のあるまち
<p>■拠点を連携する交通ネットワークの形成(移動しやすいまち)(交通利便性を活かしたまち)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通利用環境の維持・充実 駅周辺のバリアフリー 主要道路網の整備 駅周辺の駐車・駐輪対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性が高いことから、周辺都市の質の高い教育環境を享受しやすいなど、交通利便性の高さを活かしていくべき 	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車に頼らず歩いて暮らせるまちにする まちの基盤や資産を上手に使い、大切に育てるまちにしたい すべての人が自由に行動できるユニバーサルデザインのまちにする 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての人が移動しやすいまち 公共交通が便利なまち まちの元気を支える交通便利なまち 都市の資産(ストック)を上手に使うまち
<p>■安全・安心なまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害に強いまち 高齢者の居住継続の支援充実 若年層の定住促進や子育て支援機能の充実 <p>■快適な生活環境のあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な道路、下水道、公園・広場等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 防災まちづくりには減災の視点が重要 みどりの景観保全は、環境保全・共生や、安全・安心なまちづくりにも有効 ニュータウンの高齢化に十分留意しつつ、居住継続可能なまちづくりが重要 将来の地区別人口減少や高齢化に十分留意すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能が強化されたまち 災害発生時の応急体制が充実した、被害が最小限となる減災のまち 犯罪などが起こりにくい、安心して住める危険の少ないまちにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心なまち 全ての人にやさしいまち 防災から減災のまち まちなか空閑地の保全・創造 快適な生活環境のあるまち ニュータウンの高齢化に留意したまち
<p>■協働のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民自治の推進 協働の活性化、活発な地域まちづくり活動 協働のしくみづくり 自然環境・景観を守る仕組みづくり みんなで、まちの美を育むまち 	<ul style="list-style-type: none"> 「協働」のまちを強調すべき 住民参加や住民自治の促進には、地域のコミュニティづくりが重要 新旧住民の交流連携促進が必要 柔軟性、弾力性に富んだ都市づくり(しなやかなまちづくり)が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの地域に対する住民の意識が高い、自立したまちにする 	<ul style="list-style-type: none"> 協働のまち 住民の交流・コミュニティを育むまち まちの魅力を高める協働のまち みんなで安心や愛着を育てる協働のまち 地域を自分たちで創り育てる自立したまち しなやかなまち

2) まちづくりの考え方（将来像と目標）案 について

先の「目標検討のキーワード集」および「第5次総合計画の基本理念案」を踏まえると、「まちづくりの目標検討に係る重要なキーワードの柱」は、以下のように整理されます。

この、「まちづくりの目標検討に係る重要なキーワード」を踏まえつつ、「まちづくりの目標」を、以下のような柱立てで設定します。

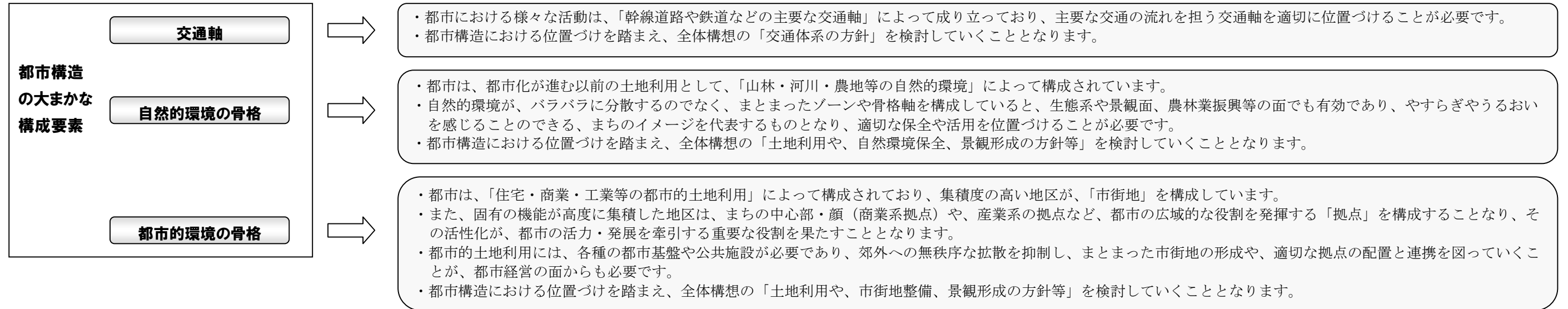
「まちづくりの将来像」については、「第5次総合計画の将来像案」を踏まえつつ、「まちづくりの目標」によりめざす「都市の将来イメージ」を表現するものとして、以下のように「将来の都市像」を設定します。



(2) 将来都市構造案 について

1) 都市構造とは

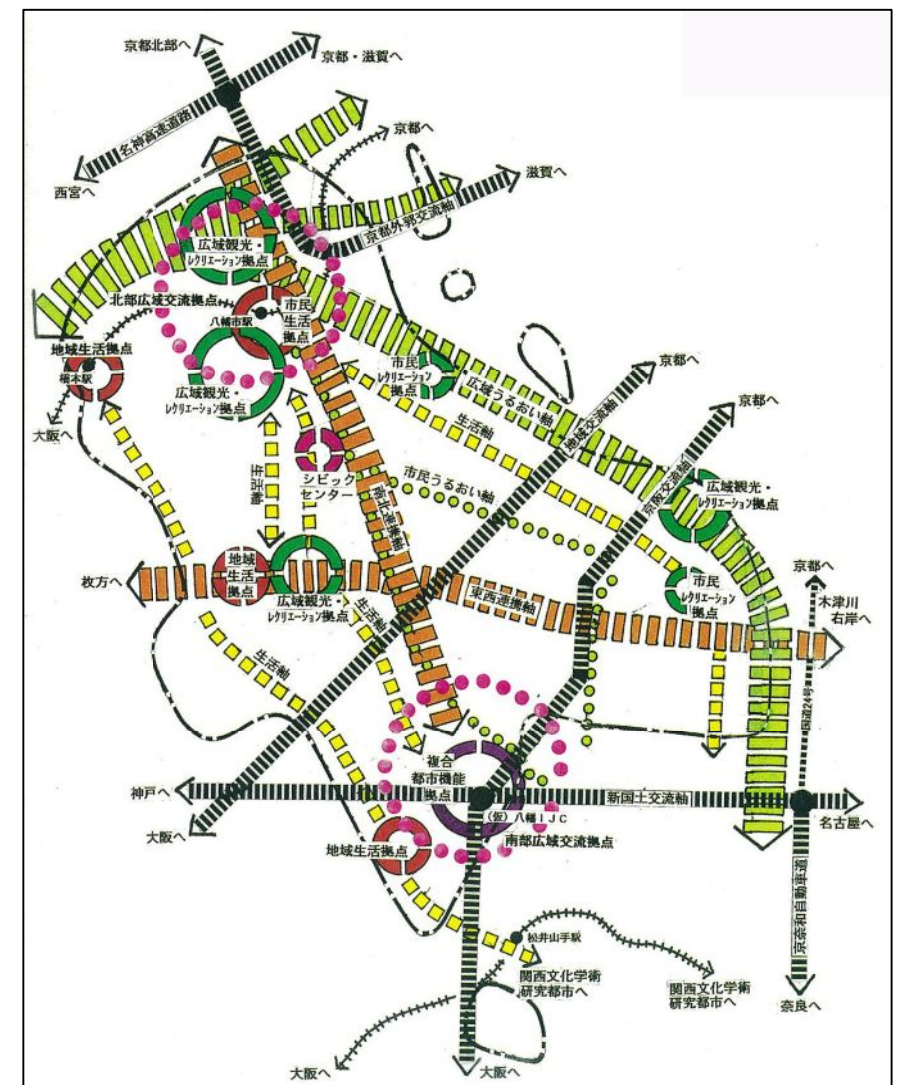
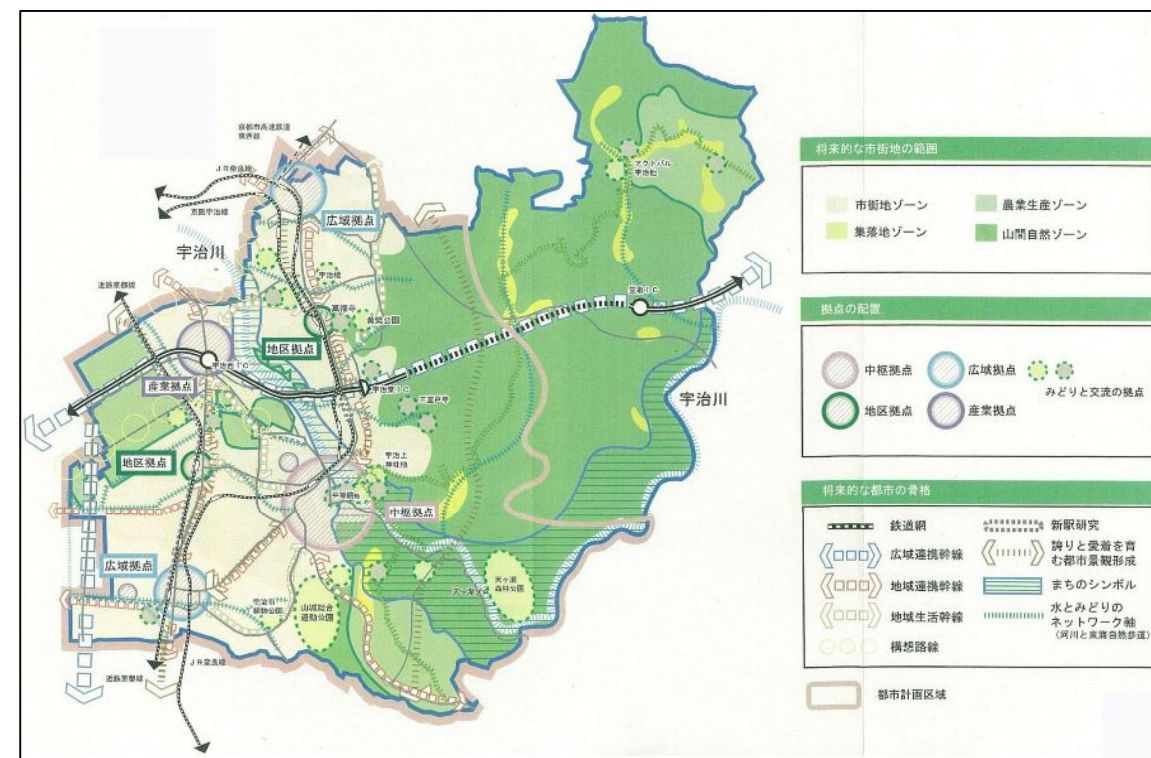
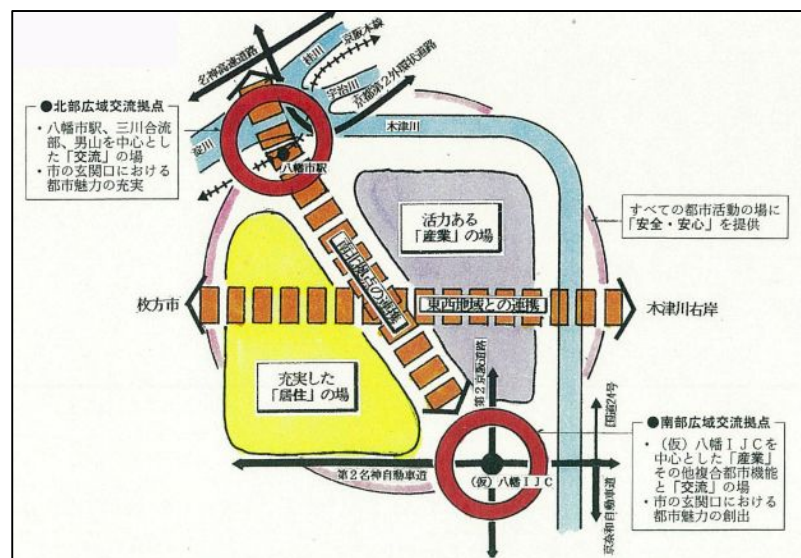
○都市づくりの理念や目標を達成するために、「まちの骨格の大まかな将来イメージ」を整理し、将来の望ましい都市づくりの方針（土地利用、交通体系、環境や景観形成の方針等）に活かしていくものです。
すなわち、「将来のまちの姿」をどのようなイメージでつくるのか、についての「スケッチ」となるものです。



<様々な都市構造のイメージ事例>

○都市計画マスタープラン等における「都市構造」の表現方法（表現の内容や細かさ）は、自治体によって様々ですが、一般的には、「拠点」と「軸」を整理し、必要に応じて「エリア・ゾーンなど」を加えて表現する方法をとっています。

- 「拠点」；まちの中心部や補完する商業・行政サービス等の拠点を示す場合が多いですが、公園や歴史・文化等の交流拠点を位置づける場合もあります。
- 「軸」；鉄道や主要な幹線道路など、まちの骨格を形成する交通軸を示す場合が多いですが、河川や緑道などの歩行者系のネットワーク軸を位置づける場合もあります。
- 「エリア・ゾーンなど」；その他、大まかな土地利用の骨格として、市街地、山林、農地等のゾーンを示す場合も多いです。

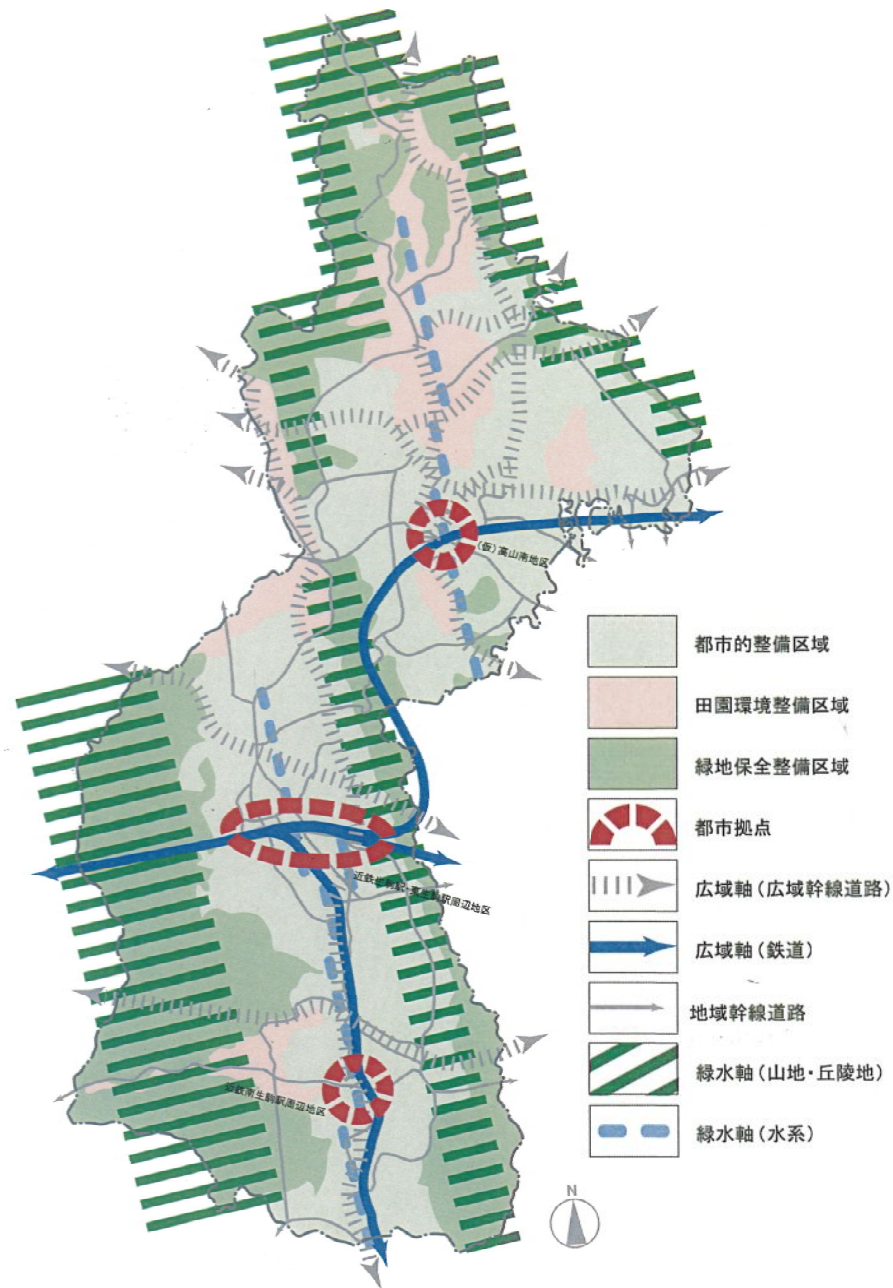


2) 都市構造の基本的な方針案に基づく、都市構造案について

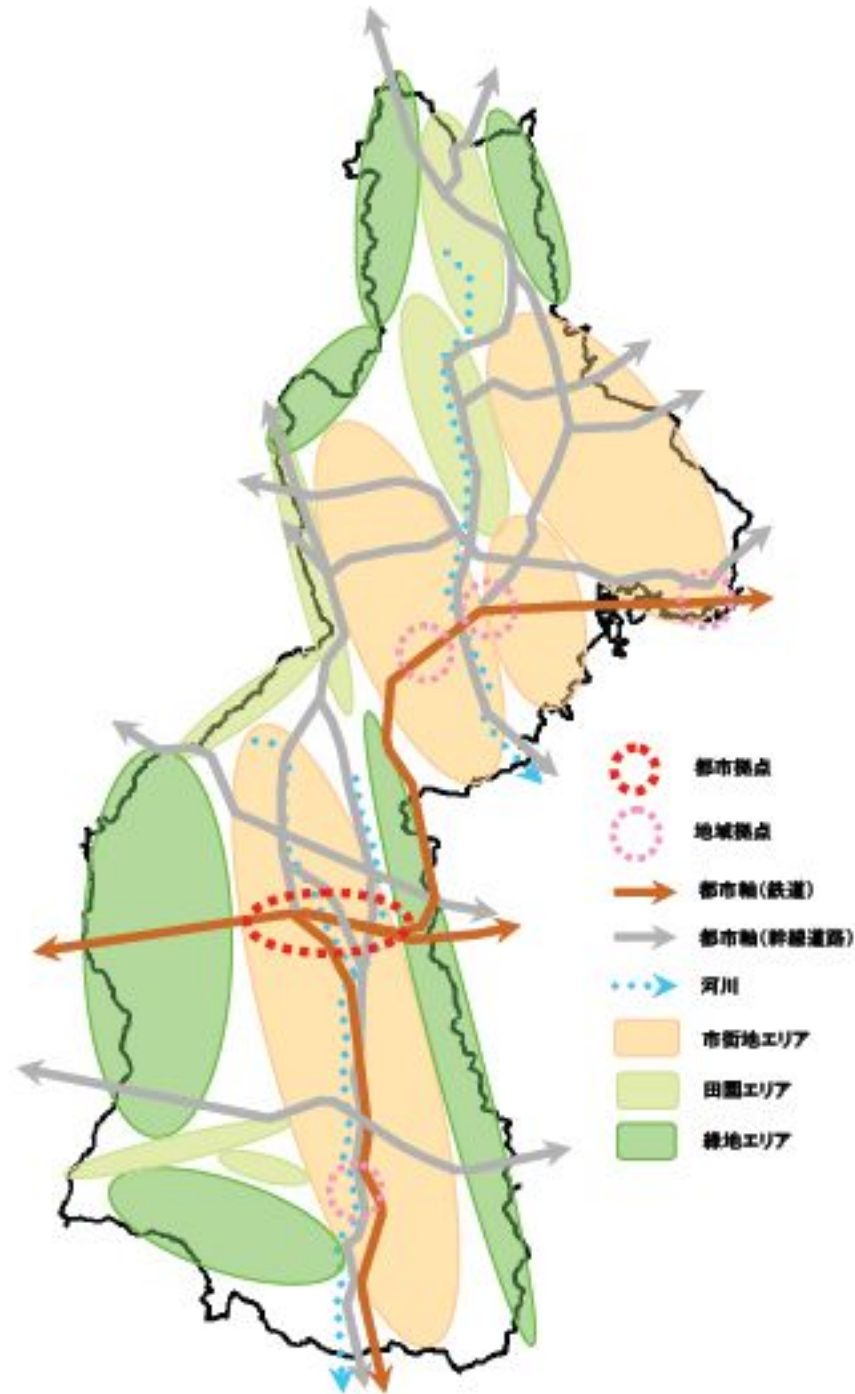
① 踏まえるべき既往計画における都市構造の方針について

○都市構造検討に際しては、以下のような生駒市における「踏まえるべき既往計画における都市構造の方針」を踏まえます。

現行都市マス 将来都市構造図



第5次総合計画 都市構造・土地利用イメージ図

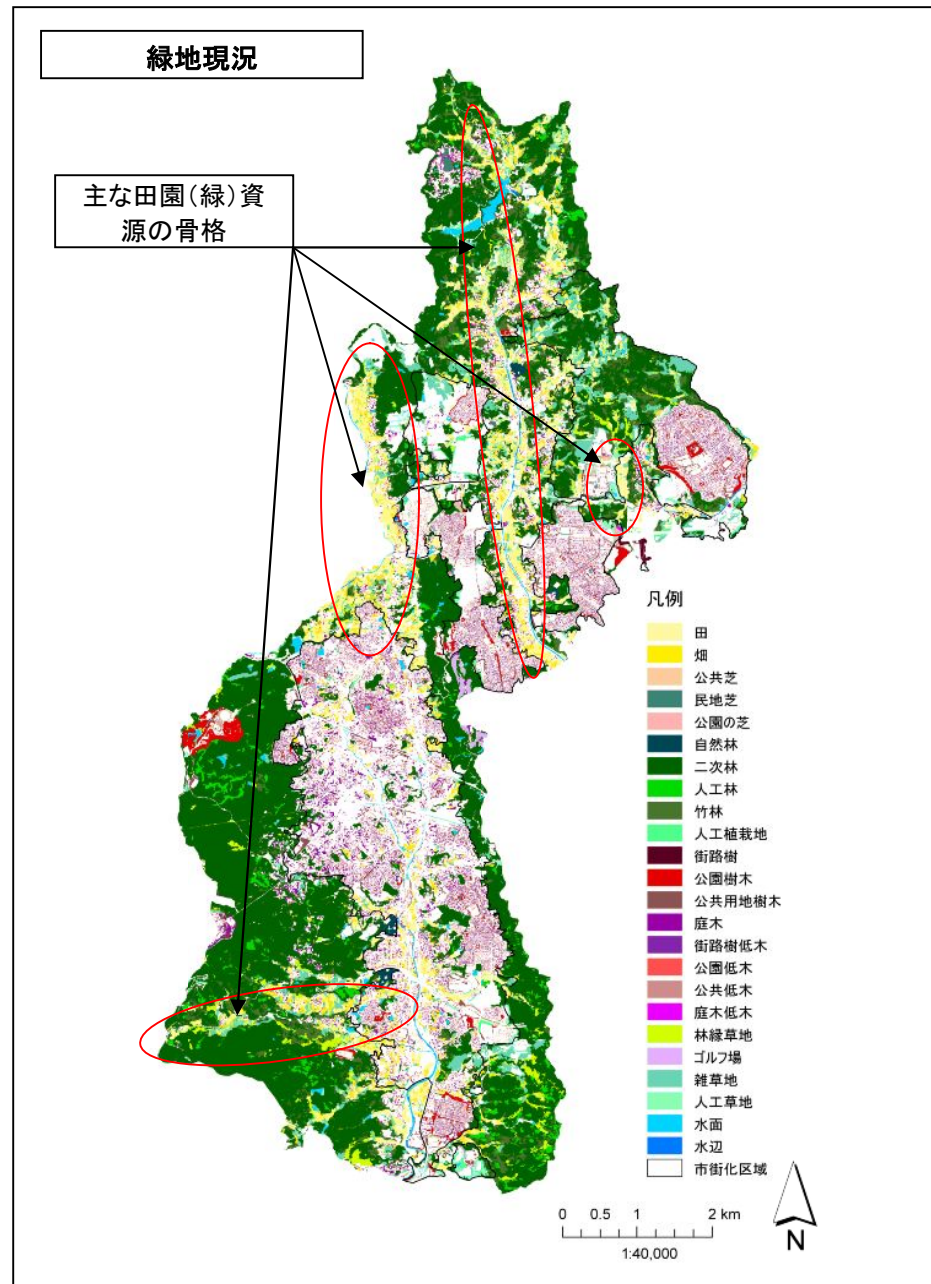


緑の基本計画 花と緑と自然の将来像

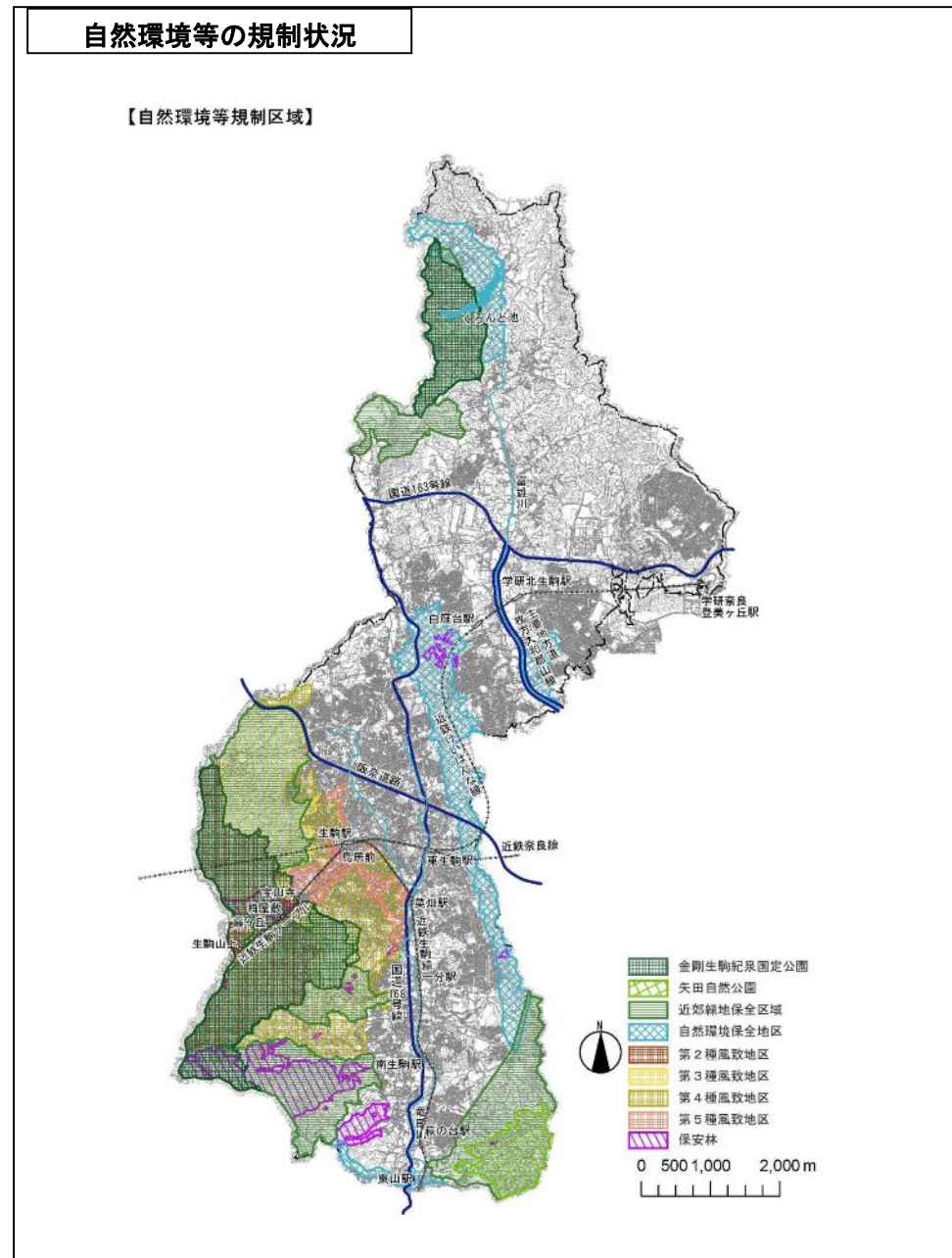


② 都市構造の基本的な方針案および現状等を踏まえた、都市構造の留意すべき方向について

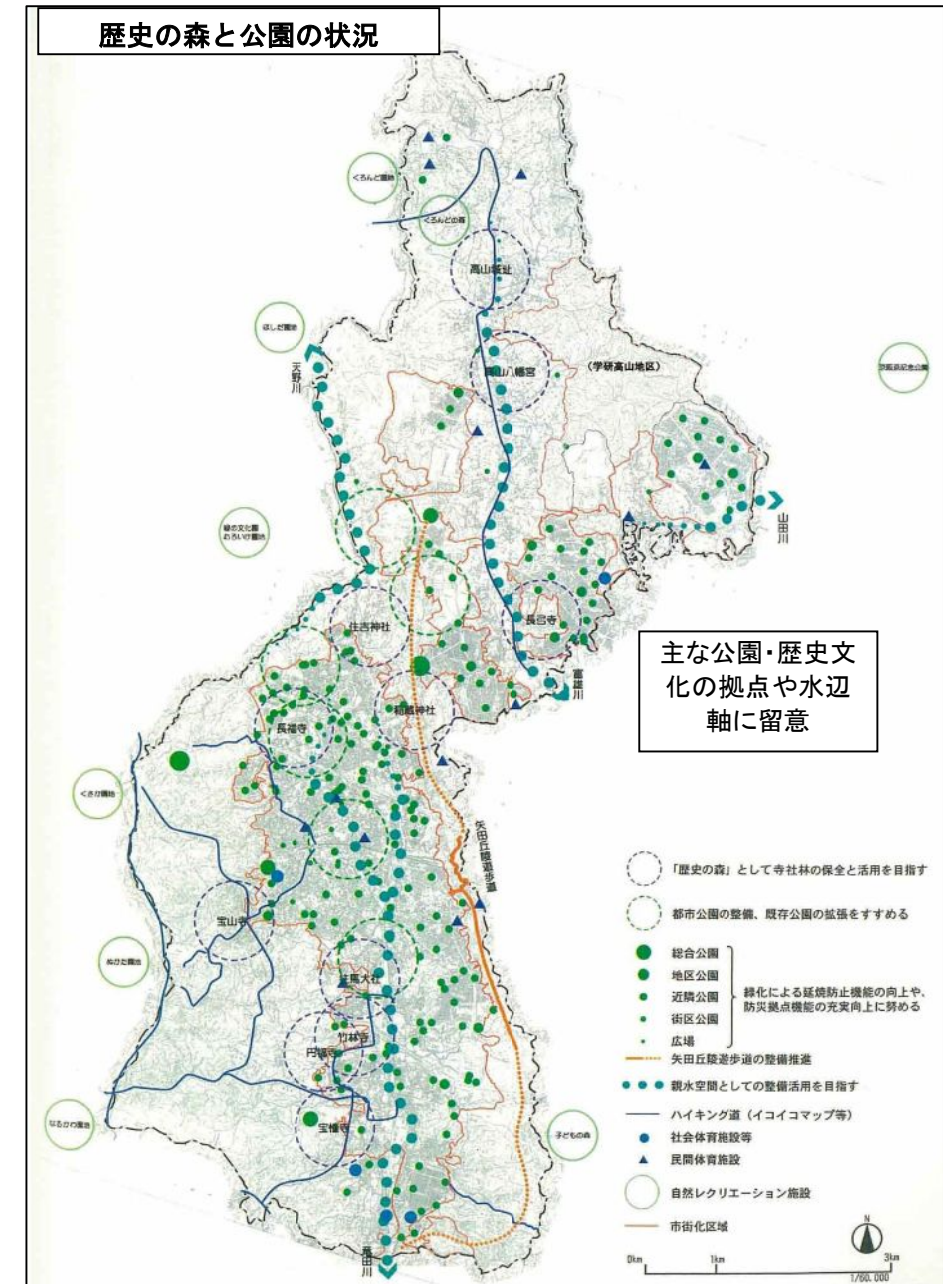
②-1 「まちの資産を守り活かすまち」の視点について



田園環境の保全と活用促進

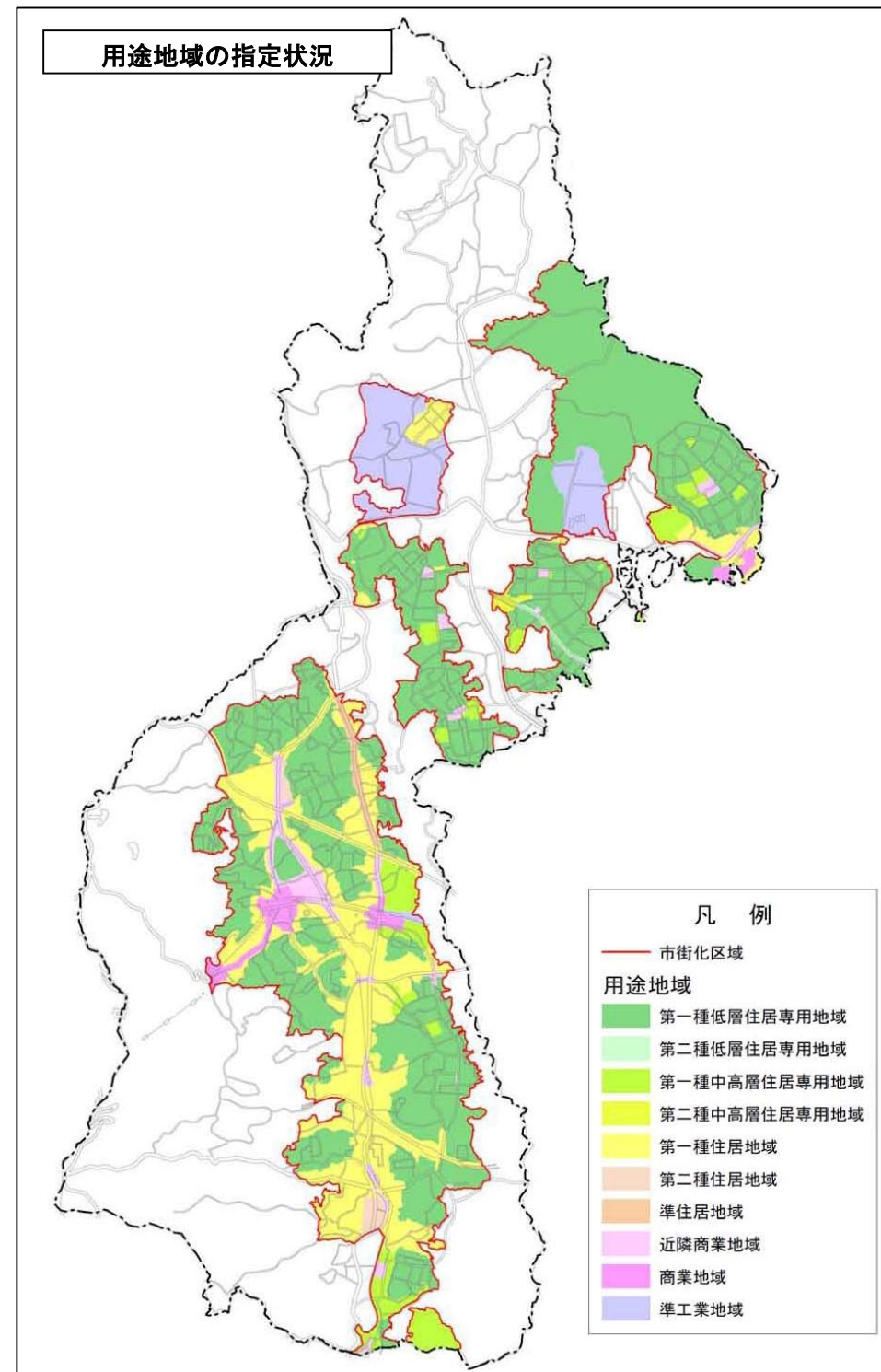
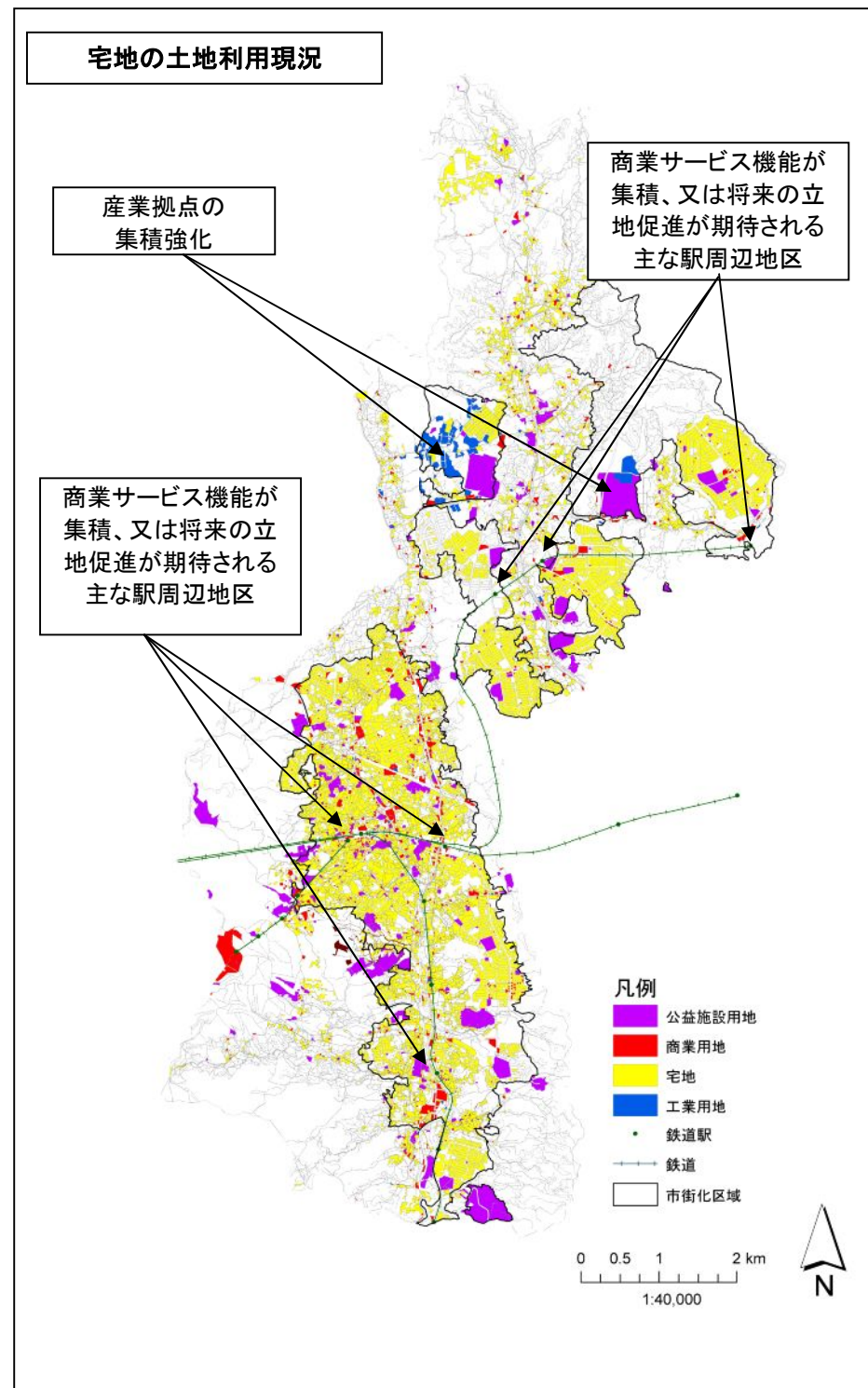


山林環境の保全と活用促進



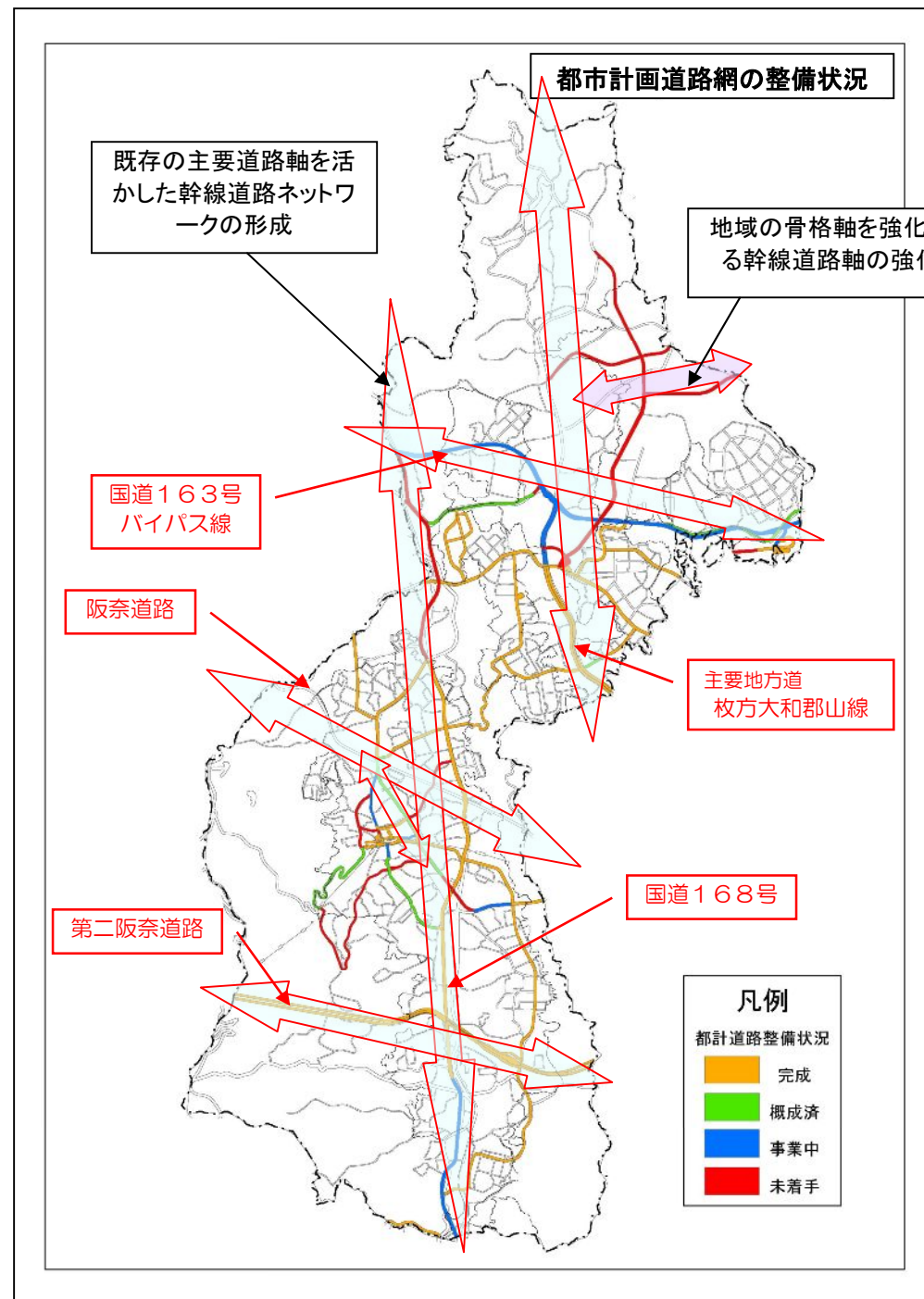
水辺環境の保全と活用促進
主な公園・歴史文化資源を活かした交流環境の充実

②-2 「コンパクトでネットワーク化されたまち」の視点(都市的な拠点形成)について

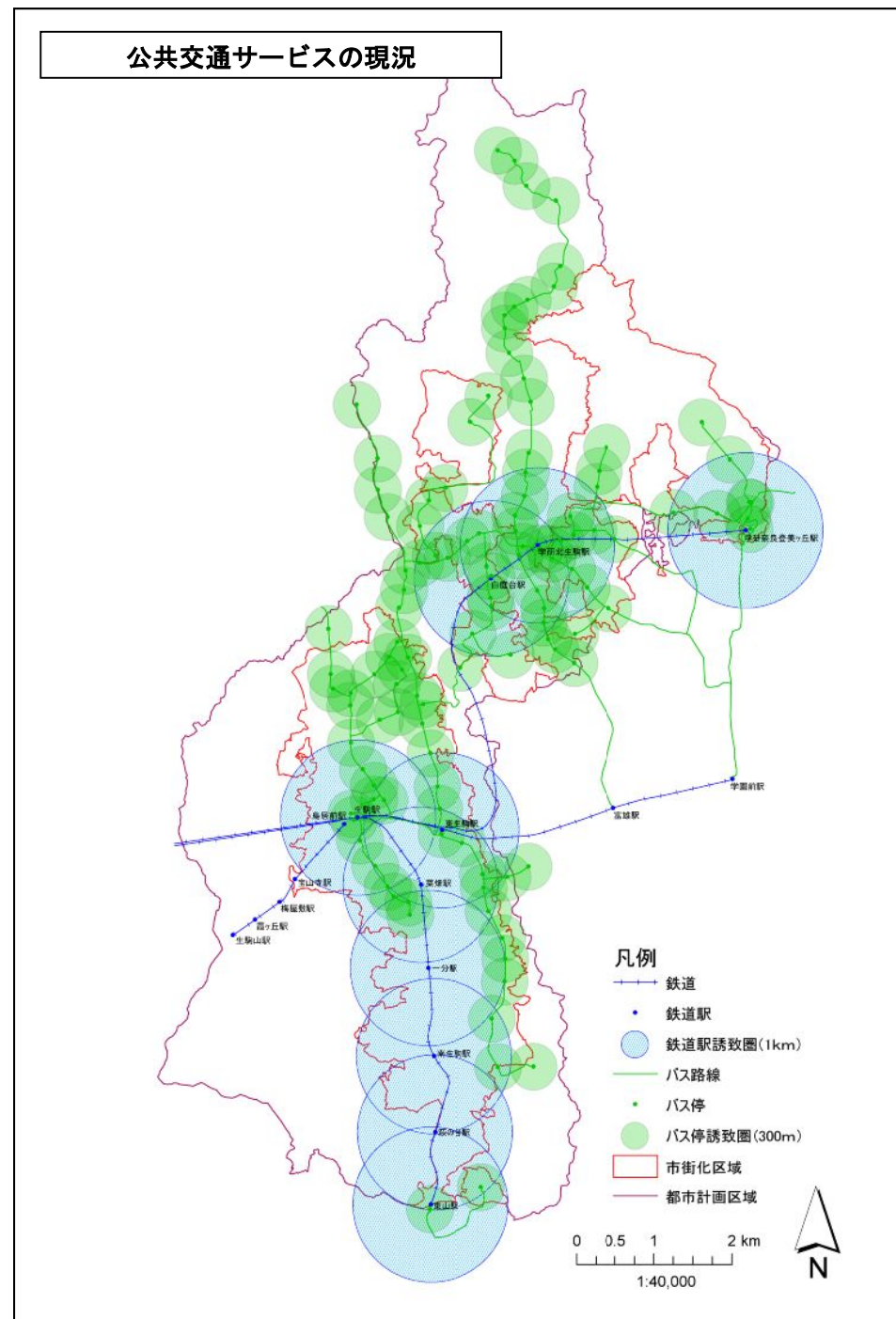


産業系拠点機能の強化
広域・地域の商業サービス等の拠点機能の強化

②-3 「コンパクトでネットワーク化されたまち」の視点(交通体系)について



まちの骨格を形成する幹線道路ネットワーク軸の形成・充実



鉄道駅の利用促進
 主な拠点サービス機能を利用しやすい公共交通網の形成

3) 将来の都市構造・案について

「まちの資産を守り活かすまち」に留意した都市構造の方針

自然環境に囲まれた、緑あふれる都市環境づくり

【市街地ゾーン】

ゆとりある市街地環境を保全し、環境負荷に配慮した、緑あふれるコンパクトな都市形成を図ります。

【緑地ゾーン】

生駒市のシンボルである生駒山地や矢田丘陵などの緑地については、自然環境の保全を基本としつつ、市民のやすらぎ・うるおいの空間としての活用を図ります。

【田園ゾーン】

農地や既存集落などの田園地帯については、人の食を支える場所として、都市近郊型農業の振興を図るとともに、ゆとりとるおいを醸し出す貴重な緑地空間として保全・創出を図ります。

生駒の自然・歴史文化に親しむ交流環境づくり

【緑水軸】

地形的には、周囲を緑豊かな山地・丘陵に囲まれ、その間を流れる富雄川と竜田川の二つの水系が南北方向の軸となる都市構造になっているため、自然環境を活用した、うるおいのある緑水軸を形成するとともに、緑水軸と公園緑地拠点・歴史文化拠点等を連携する、快適な歩行者ネットワークの充実を図ります。

【公園緑地拠点・歴史文化拠点】

市内に点在する主な公園緑地や歴史文化資源は、市内外の観光・交流人口の増大を図る拠点として、魅力ある環境形成を図ります。

「コンパクトでネットワーク化されたまち」に留意した都市構造の方針

拠点が連携するコンパクトな都市づくり

【都市拠点・中心拠点】

本市の玄関口である近鉄生駒駅周辺地域を中心拠点としつつ、隣接する東生駒駅周辺地域と連携した都市拠点を形成し、生駒駅前北口再開発事業等によって様々な都市機能の集積を図ります。

【地域拠点】

生駒市は南北に長い都市であることを考慮し、主要駅周辺地区は、鉄道利用利便性を活かしつつ、住民の利便性を高めるため、各駅周辺における地域・地区の生活サービス・交流・居住等機能の充実と、駅周辺の歩きたくなる歩いて暮らせるまちづくりを図ります。

特に、学研奈良登美ヶ丘、学研北生駒、東生駒の各駅は、都市拠点を補完する商業・交流等の機能強化を図ります。

【産業・学術研究拠点】

既存の学研都市および北原工業団地を中心に、学術・研究・業務機能等の集積を図るとともに、学研高山地区第2工区については、地域の状況や社会経済環境、関係者の意向等を踏まえて、「自然環境との共生」を軸とした適切な土地利用の配置・誘導に努めます。

すべての人が移動しやすい交通環境づくり

【鉄道軸・幹線道路軸】

道路整備等により南北方向のネットワークの強化を図るとともに、鉄道利用の利便性を活かした拠点（中心拠点・地域拠点）を中心とする公共交通を利用しやすい環境づくりを進め、都市活動の促進を図ります。

【交通結節点(鉄道駅)】

鉄道駅を中心に公共交通を利用しやすい環境づくりを進めるとともに、各駅の機能に応じ、身近な交流活動が行われるような環境づくりを進めます。

将来の都市構造図（案）

